

メッセージアウトライン マタイ1：18～25「人の思いを越えて」

紀元前1000年頃、イスラエルのダビデ王に対して神が預言者ナタンを通して告げられた約束のことば(→Ⅱサムエル7:12～16)は、それから1000年後の時代においても実現していなかった。ヨセフはダビデの子孫のひとりであったが貧しい大工であった。当時の世界はローマ帝国が支配する時代であり、ユダヤの王はヘロデでイスラエル人ではなくエドム人(イドマヤ人)であった。「ダビデの子孫から出る世継ぎの子が彼の王国を確立させ、その王座はどこしえまでも堅く立つ」とのことばが実現する気配はなかった。しかし、人間的な望みや力の尽きたと思える状態において、人の思いを越えた神の救いのご計画が実現することになるのである。

[18]「その母マリヤはヨセフの妻と決まっていた」…これは婚約のことであり、ユダヤでは婚約するということは法律上の夫婦となるということであった。これを解消するときは離婚手続きが必要。彼らはこのような関係にあるので、19節でヨセフは「夫」と呼ばれている。この婚約期間が終わって結婚式を挙げてから、実際にともに住んで夫婦生活に入るわけである。ところがこの婚約期間中にマリヤが身重になったことがわかった。それは「聖霊による」つまり神の働きによることであったがヨセフはそのことを知らなかった。

[19]「正しい人」とは神を恐れる敬虔なユダヤ人ということ。彼が思ったことは、マリヤが姦淫をしたということである。そのようなマリヤと結婚式を挙げるということは神を恐れる者としてできない。「彼女をさらし者にはしたくなかった」→申命記22:22～24によれば死刑にあたる。それでヨセフは彼女を「内密に去らせよう」と決めた。つまり離縁しようとしたのである。

[20]「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです」…ヨセフの決心が実行に移される前に神は介入された。

[21]さらに主の使いは、マリヤが男の子を産むこと、その名をイエスとつけること、このお方こそ、ご自分の民をその罪から救って下さるお方であるということをお告げした。「イエス」(ギリシア語)とはヘブル語の「ヨシュア」と同じで、「主は救い」という意味。「キリスト」は救い主という意味。このイエスという男の子こそが長年にわたって旧約聖書に預言されていた救い主なのである。→Ⅱサムエル7:12-16, 詩篇89:3-4, 29-37, 他

[22-25]このすべての出来事は、主が預言者を通して言われたこと、つまり旧約聖書の預言が成就するためであった。ここでは特にイザヤ書の預言があげられている。→イザヤ7:14 イザヤはイエスの時代より七百年以上も前の預言者である。ヨセフは主の使いに命じられたとおりにしてその妻を迎え入れた。

神は時をご存知であり、人間的には全く望みがないような時に、みわざをなされ、ご自身が約束のみことばに忠実であることを示され、ご栄光を現わされる。ヨセフとマリヤは信仰をもって主のみことばに従い、それによって、この世に救い主イエス・キリストが来られることになったのである。